

北海道リコー



辻田清社長

北海道リコー(本社・札幌市、辻田清社長)は1970(昭和45)年に創立。同社では経営理念の中で「私たちの行動指針」を掲

顧客起点の企業活動を目指し「経営革新実践研究会」をスタート

地域経済の活性化に貢献

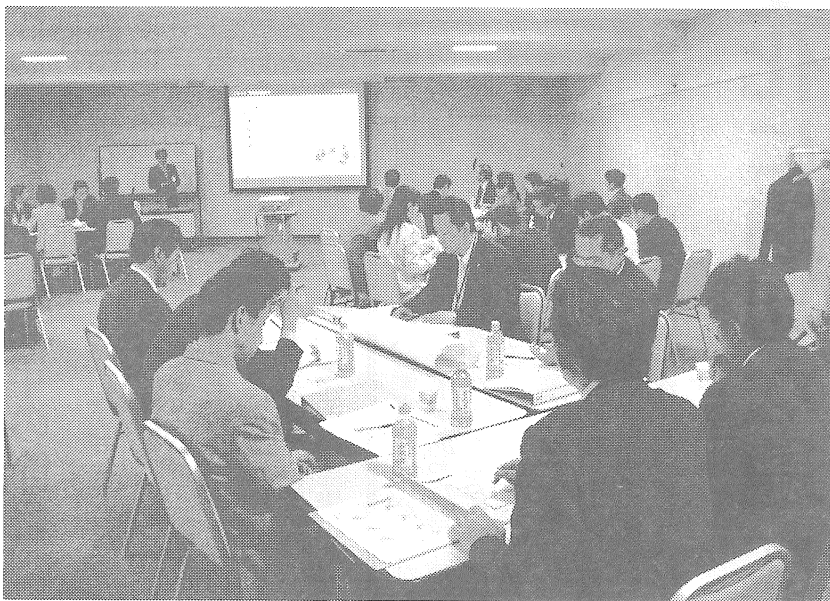
①自ら行動し、自ら創り出す(自主創造)②相手の立場にたって考え、行動する(お役立ち精神)③会社の発展と個人の幸福の一致をはかる(人間主体の経営)――を打ち出

し、地域社会への貢献を目指して企業活動を展開している。「ここ数年の間にかつて経験したことのないような環境変化の中にあって、私たちは、お客様に選ばれる企業」になりたいと考えています。ユーザーは大きく変化しており、今後は、①事業を伸ばすためのソリューション(Solution)を開発②ユーザー企業と

直面する経営課題を明らかにした上で、競争力ある経営、顧客起点の企業活動を目指していく考えだ。

辻田社長は、「北海道経済はまだまだ厳しい状況にあります。それぞれの企業が経営革新を図り、競争力をつけることによって、地域経済全体が活性化されるものと考えます。研究会での討議や交流などを通じ、各社の経営革新の一助にしたい」と話す。

また、社員が自主的に社内外で、植樹祭や清掃などの環境ボランティア活動に参加するなど、環境活動は全社的な広がりを見せている。



経営革新の一助になるようにと今年5月から開始した「経営革新実践研究会」は好評だ

同社では今年5月、ユーザー企業を対象に「経営革新実践研究会」の第一期コースをスタートした。研究会は延べ6回の研究会で構成され、ビデオ教材を使用し、グループ討議や発表などを通して、各企業が

参加企業も建設業、流通業、製造業、教育などさまざまな分野・業種から参加者が集い、経営革新を進める上での気づきを得られる内容として高い評価を得ている。

研究会の第二回目は6月16日に開催され、10月まで毎月開催される。今後は第二期、第三期と継続して開催する予定である。

一方、同社ではリコーグループ全体で取り組んでいる「環境経営」を着実に実践している。

2001年12月には、リコー国内販売グループの一員として、グループ一括で環境マネジメントシステムの国際規格であるISO14001を認証取得した。その際、ネットオーディット(電子審査)を採用し、書類審査がわずか4日間で終了した。

同社では環境活動を積極的に推進している。地元で毎年開催される環境展環境広場さっぽろには、北海道リコーグループ(同社、リコーテクノシステムズ北海道支社、リコーリース札幌支社)として、出展参加しているだけでなく、リコーグループで運用し蓄積されたノウハウを基に顧客へのISO認証取得の支援も行なっている。

また、社員が自主的に社内外で、植樹祭や清掃などの環境ボランティア活動に参加するなど、環境活動は全社的な広がりを見せている。

▽本社 札幌市北区北7条西4丁目12番地ニッセイMKビルVURL
http://www.hokkaido.ricoh.co.jp/